

# 定期作況報告

(第5号 平成22年9月20日現在)  
地方独立行政法人北海道立総合研究機構  
農業研究本部 上川農業試験場

## 1. 気象概況

8月下旬：最高気温は平年より2.9℃高く、最低気温も平年より2.9℃高かった。降水量は平年より20.5mm少なく、平年対比61%であった。降水日数は平年より1日多かった。日照時間は平年より5.0時間少なく、平年対比90%であった。夏日（最高気温25℃以上）は9日、うち真夏日（最高気温30℃以上）は2日であった。

9月上旬：最高気温は平年より2.4℃高く、最低気温も平年より2.1℃高かった。降水量は平年より8.8mm少なく、平年対比86%であった。降水日数は平年より1日少なかった。日照時間は平年より5.9時間多く、平年対比113%であった。夏日は7日、うち真夏日は1日であった。

9月中旬：最高気温は平年より3.4℃高く、最低気温も平年より2.1℃高かった。降水量は平年より42.5mm少なく、平年対比4%であった。降水日数は平年より3日少なかった。日照時間は平年より16.5時間多く、平年対比134%であった。夏日は6日、真夏日は無かった。

8月下旬から9月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	8月下旬			9月上旬			9月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	27.4	24.5	2.9	25.8	23.4	2.4	25.1	21.7	3.4	26.1	23.2	2.9
最低気温(℃)	17.6	14.7	2.9	15.3	13.2	2.1	13.1	11.0	2.1	15.3	13.0	2.3
平均気温(℃)	22.2	19.3	2.9	20.2	17.9	2.3	18.2	16.0	2.2	20.2	17.7	2.5
降水量(mm)	31.5	52.0	▲20.5	52.0	60.8	▲8.8	2.0	44.5	▲42.5	85.5	157.3	▲71.8
降水日数(日)	5	4	1	4	5	▲1	1	4	▲3	10	13	▲3
日照時間(hr)	43.8	48.8	▲5.0	53.1	47.2	5.9	64.5	48.0	16.5	161.4	144.0	17.4

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10カ年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

## 2. 作 況

### 1) 水 稲 : やや良

事由：出穂期は平年より6～7日早かったが、7月下旬から8月上旬の日照不足により前期の登熟が劣り登熟後期では穂基部の登熟が進まなかったため、登熟日数が平年より5～6日長くかかり、成熟期はほぼ平年並となった。

㎡当たり穂数は平年対比「ほしのゆめ」が89%「きらら397」が95%で少なく、「ななつぼし」は99%で平年並みであった。一穂粒数は平年対比「きらら397」が106%平年より多く、「ほしのゆめ」は94%「ななつぼし」が97%でやや少なかった。その結果、㎡当たり粒数(㎡当たり穂数×一穂粒数)は平年対比「きらら397」がほぼ平年並であったが、「ほしのゆめ」は83%「ななつぼし」は96%で少なかった。稔実歩合はいずれの品種も平年より高く、平年対比103～107%であった。㎡当稔実粒数(㎡当たり粒数×稔実歩合)は平年対比「ほしのゆめ」は86%と少なかったが、「きらら397」は107%と多く、「ななつぼし」は102%でやや多かった。登熟歩合は平年対比「ななつぼし」が98%とやや低かったが、「ほしのゆめ」「きらら397」は平年並みであった。

以上、㎡当稔実粒数、登熟歩合がほぼ平年並みで、登熟日数は長かったものの登熟は良好で千粒重が大きいことが予想される。したがって、目下の作況は「やや良」である。

表2 生育期節

品種名 苗	成熟期(月・日)			登熟日数(日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ほしのゆめ 成苗	9.03	9.04	△1	49	44	5
きらら397 成苗	9.11	9.11	0	55	49	6
ななつぼし 成苗	9.08	9.09	△1	53	48	5

注1) 平年値は平成15～21年7カ年のうち平成20年(最豊年)、平成21年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。

2) △印は平年に比べて「早」(成熟期)を示す。

表3 収量構成要素および稔実歩合

品種名 苗	㎡当たり穂数(本)				一穂粒数(粒)				㎡当たり粒数(×1000粒)			
	本年	平年	比較	対比(%)	本年	平年	比較	対比(%)	本年	平年	比較	対比(%)
ほしのゆめ 成苗	673	759	▲86	89%	39.8	42.4	▲2.6	94%	26.8	32.2	▲5.4	83%
きらら397 成苗	661	693	▲32	95%	45.0	42.5	2.5	106%	29.7	29.4	0.3	101%
ななつぼし 成苗	650	658	▲8	99%	49.3	50.9	▲1.6	97%	32.0	33.5	▲1.5	96%

品種名 苗	稔実歩合(%)				㎡当稔実粒数(×1000粒)				登熟歩合(%)			
	本年	平年	比較	対比(%)	本年	平年	比較	対比(%)	本年	平年	比較	対比(%)
ほしのゆめ 成苗	93.7	91.1	2.6	103%	25.1	29.3	▲4.2	86%	85.5	85.2	0.3	100%
きらら397 成苗	95.6	90.0	5.6	106%	28.4	26.5	1.9	107%	84.1	84.1	0.0	100%
ななつぼし 成苗	96.8	90.5	6.3	107%	31.0	30.3	0.7	102%	85.2	86.5	▲1.3	98%

注1) 平年値は平成15～21年7カ年のうち平成20年(最豊年)、平成21年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。

2) ▲印は平年に比べて「減」を示す。

3) 一穂粒数の平年値は、登熟調査および不稔調査を行った計12株の平均値を用いた。本年値は22株の平均値を用いた。

表4 出穂後経時登熟歩合

品種名	苗	出穂後20日目			出穂後30日目			出穂後40日目		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ほしのゆめ	成苗	9.9	13.8	▲ 3.9	63.6	58.1	5.5	77.4	(82.2)	▲ 4.8
きらら397	成苗	9.3	13.4	▲ 4.1	58.7	56.6	2.1	75.8	(78.2)	▲ 2.4
ななつぼし	成苗	8.0	13.3	▲ 5.3	52.7	52.6	0.1	76.4	(79.8)	▲ 3.4

注1) 平年値は平成15～21年7カ年のうち平成20年（最豊年）、平成21年（最凶年）を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 出穂後40日目の平年値は平成16年のデータが欠測のため4カ年のみのデータから平均を算出しており参考扱いとする。

3) 登熟歩合は比重1.06の塩水選で求めた。

4) ▲印は平年に比べて「減」を示す。

2) 秋まき小麦：本年播種より、品種を「ホクシン」から「きたほなみ」へ変更した。「きたほなみ」の播種適期に合わせて、平年より6日遅い9月15日に播種を行った。

注) 平年値は、前6カ年中、平成22年を除く5カ年の平均値。

3) 春まき小麦： 不良

事由：倒伏により子実への転流が劣ったことから、千粒重が平年を下回り、子実重は平年比65%と低収となった。リットル重も平年より軽かった。

したがって、目下の作況は不良である。

表5 春まき小麦の収量

品種名	子実重 (kg/10a)			子実重平年比 (%)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
春よ恋	334	517	▲183	65	100	▲35

品種名	千粒重 (g)			リットル重 (g)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
春よ恋	35.3	40.1	▲4.8	722	798	▲76

注1) 平年値は、前7か年中、平成15年、18年を除く5か年の平均値

2) ▲は平年より減を示す。

3) リットル重は1リットル升による測定。

4) 大豆 : やや不良

事由：前報に引き続き高温に推移したことから、成熟期は平年より12日早い9月9日であった。主茎長は平年よりやや長く、主茎節数および分枝数はほぼ平年並であるが、着莢数は平年より少ない。したがって、目下の作況はやや不良である。

表6 9月20日の大豆の生育

品種名	成熟期(月日)		
	本年	平年	比較
ユキホマレ	9.09	9.21	△12

品種名	主茎長(cm)			主茎節数(節)			分枝数(本/株)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ユキホマレ	70.3	63.1	7.2	10.6	10.5	0.1	5.9	5.6	0.3

品種名	着莢数(個/株)		
	本年	平年	比較
ユキホマレ	69	77	▲8

注1) 平年値は前7か年中、平成18年、21年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早、▲は平年より減を示す。

5) 小豆 : 平年並

事由：前期に引き続き、8月下旬も高温に経過したため、成熟期は平年より8～9日早かった。主茎長は平年を大きく上回り、分枝数は平年を上回り、着莢数は平年並であった。したがって、目下の作況は平年並である。

表7 成熟期の小豆の生育

品種名	成熟期(月日)			主茎長(cm)			分枝数(本/株)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
エリモシヨウス <sup>†</sup>	8.27	9.05	△9	100	62	38	5.5	4.3	1.2
しゅまり	8.29	9.06	△8	110	65	45	7.1	4.9	2.2

品種名	着莢数(個/株)		
	本年	平年	比較
エリモシヨウス <sup>†</sup>	56	54	2
しゅまり	53	52	1

注1) 平年値は、前7か年中、平成15年、平成16年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を示す。

6) ばれいしょ： やや良

事 由： 枯凋の進行は緩慢で、枯凋期は平年より 11 日遅い 9 月 15 日であった。株当たり上いも数、上いも平均一個重とも平年値をやや上回り、上いも収量、中以上いも収量および規格内収量は、いずれも平年を上回った。でん粉価は、高温に経過したため、平年より 1.7 ポイント低く、塊茎は二次生長、裂開、皮目肥大が多く、外観は良くない。

したがって、目下の作況はやや良である。

表 8 9 月 20 日のばれいしょの生育

品種名	枯凋期(月日)			上いも数(個/株)			上いも均一個重(g)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵いも	9.15	9.04	11	12.6	12.3	0.3	102	97	5

品種名	上いも収量(kg/10a)			中以上いも収量(kg/10a)			規格内収量(kg/10a)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵いも	5728	5263	465	5017	4537	480	4809	4198	611

品種名	でん粉価(%)			収量平年比(%)		
	本年	平年	比較	上いも	中以上	規格内
男爵いも	13.3	15.0	▲1.7	109	111	115

注 1) 平年値は、前 7 か年中平成 16、19 年を除く 5 か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

3) 規格内収量は、生食用規格内 (M~2 L, 60 ~ 260 g/個) の収量である。